

Alexithymia Is Associated with Greater Risk of Chronic Pain and Negative Affect and with Lower Life Satisfaction in a General Population : The Hisayama Study

柴田, 舞欧

<https://hdl.handle.net/2324/1456007>

出版情報 : 九州大学, 2014, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)



論文審査の結果の要旨

これまでアレキシサイミア（感情への気づきと自己調整に困難を持つパーソナリティ特性）と慢性疼痛の関連について、一般住民を対象に検討した研究はない。

そこで申請者らは、久山町において 927 人の成人を対象にアレキシサイミアと慢性痛の関連について検討した。まず、アレキシサイミア、痛み、生活障害、不安、抑うつ、生活満足度の質問紙を対象者に施行した。アレキシサイミア質問紙の点数で対象者を 4 群（正常低値、正常中値、正常高値、アレキシサイミア）に分け、評価尺度に対するリスクをロジスティック回帰分析で検討した。結果は、背景因子調整後の慢性疼痛のオッズ比が、正常低値群に比べ、正常高値群（オッズ比：1.49、95%信頼区間：1.07-2.09）、アレキシサイミア群（オッズ比：2.56、95%信頼区間：1.47-4.45）で有意に高かった。慢性疼痛を有する 439 人でのサブ解析では、アレキシサイミアのカテゴリーが上昇するごとに、痛みの強さ、生活障害、抑うつ、不安のレベルは上昇し、生活満足度の程度は低下した。本研究により、一般住民においてアレキシサイミアレベルの高さは慢性疼痛のリスク上昇に関連することが示された。アレキシサイミアと否定的感情を早期から同定し治療することは、慢性疼痛の予防と臨床的かつ経済的負担の軽減につながる可能性がある。

本研究の知見は、アレキシサイミアの観点から慢性疼痛患者の予防および治療戦略を考えるという視点において、新たな情報を提供したものであり、意義あるものである。

本論文についての試験はまず研究目的、方法、結果の解釈などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについてもおおむね適切な回答を得た。

よって、調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。